

2018年8月17日  
千代田化工建設株式会社  
IR・広報・CSR部**2019年3月期 第1四半期決算・電話会議説明要旨 (2018年8月8日発表)**

千代田化工建設の山東です。

本日はお忙しいところ電話会議にご参加いただき、ありがとうございます。

それでは、ただいまから2019年3月期・第1四半期決算の概要についてご説明します。質疑応答については、林 CFO とともに対応します。

スライドの2ページ・決算ハイライトをご覧ください。ポイントを4点申し上げます。

**1点目は、受注が順調に進んでいる、ということです。**

第1四半期の受注高は773億円です。但し5月に私どもの北米の子会社が石化案件で約1,500億円の受注を上げており、実質的にはこの第1四半期で、合計約2,300億円の受注となりました。なお、この子会社の決算は3ヶ月遅れで千代田化工本体に連結されるという会計上の取り扱いにより、この北米案件は、第2四半期にて千代田化工本体の連結受注高に計上されます。

地球環境エンジニアリング分野も好調です。お客様の事情でまだ具体的案件名は言えませんが、エネルギー・マネジメント関係で大型受注がありました。

また、大型LNG案件については、既にEPCコントラクターに内定しているモザンビーク・エリア-1、および入札中のゴールデンパスは、どちらもFID(最終投資決定)に向けて順調に進んでいます。

**2点目は、完成工事高が順調に積み上がっていることです。**

第1四半期の実績は936億円です。通期予想・4,000億円のおおよそ25%にあたります。

**3点目は、米国キャメロンLNGプロジェクトの追加コストで、工事損益が約50億円悪化したことです。**

このコスト増の主な要因は、スケジュール遵守の為、従来の旧CB&Iのセルフ・パフォーマンス、いわゆる直備方式のやり方から工事業者を起用するやり方に切り替える過程で一時的に人員が重複したことによります。現在、不要な労働者は逐次解雇を進めています。CB&Iを合併統合した新しいパートナーであるマクダーモット社とは、今後の工事遂行方法の見直し及びそれに伴うコストの精査を行うことで合意しており、この作業に着手しているところです。

この追加コストを計上したことで、第1四半期決算は営業利益以下が赤字となりました。

この資料には、本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。従いまして、この業績見通しにのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。

#### 4点目は、通期業績予想は変更なしということです。

いまご説明したキャメロンプロジェクトでの損益悪化はありますが、元々ある程度の備えをしていたこと、また、第1四半期でもあり他案件での損益見通しを考慮し、通期予想は据え置きます。

今後とも、手持ちのプロジェクトを確実に遂行し、通期予想の達成を目指します。

スライド3ページ・業績概要は今のご説明の繰り返しになりますので、簡単に数字だけを振り返ります。

受注高は773億円。完成工事高は936億円。純利益は37億円の赤字です。

スライドの4ページをご覧ください。

受注高は、海外123億円、国内650億円の合計773億円ですが、実質的には、先ほどご説明した受注済の北米石化案件約1,500億円を加えた約2,300億円となりますので、この場合、通期予想の約30%に達しています。

同じページの右側の分野別グラフをご覧ください。

「地球環境分野」、すなわち医薬・生化学・一般化学の22億円と環境・新エネ・インフラ・その他の371億円を足した受注は393億円となります。これは前年同期比で約5倍と大きく伸びています。

スライドの5ページ・受注残高は説明を省きます。

次にスライド6ページ・損益計算書項目です。

まず、完成工事高は936億円となりました。

通期予想4,000億円のおおよそ25%となりますので、順調な進捗といえます。

完成工事総利益は、最初にご説明したキャメロンプロジェクトの追加コストの影響で9億円となりました。

販管費は42億円と前年同期比で7億円減っています。中期経営計画のひとつの柱である構造改革の成果が、しっかりと現れています。

これらによって、営業利益は34億円の赤字、これに営業外損益や法人税等を加えた結果、第1四半期の純利益は37億円の赤字となりました。

スライド7ページの完成工事高の説明は割愛します。

次にスライド8ページのバランスシートでは、現預金の減少についてご説明します。

現預金は、18年3月末比178億円減少し862億円となっていますが、大型案件を遂行しているジョイント・ベンチャーからの代金回収が完成後となる状況の中で、固定費の支払や海外のプロジェクト遂行のため一時的な資金の立替を行ったことなどによるものです。

最後にスライド9ページ、通期業績予想をご覧ください。

通期業績予想については変更ありません。

キャメロンLNGプロジェクトの追加コストによって第1四半期決算は赤字となっていますが、もともとある程度の備えをしていたこと、また他プロジェクトの損益改善でカバーできる見込みです。

以上で、第1四半期決算および通期業績予想についての説明を終わりますが、当社としましては、今後とも、各プロジェクト等を確実に遂行し、通期業績予想の達成を目指してまいります。

では、これよりご質問をお受けいたします。

以上